

疑問詞	疑問詞は疑問文の前につきます。	① <u>どのように</u> 彼女は英語を勉強していますか？ → () () () () English?
	What「何」、Which「どちら」、Who「誰」、Whose「誰の」、Where「どこ」、When「いつ」、Why「なぜ」、How「どのように」	② <u>なぜ</u> 彼女は英語を勉強しますか？ → () () () () English?
	How long は「どの位長く」という意味です。	③ <u>いつ</u> 彼女は英語を勉強しましたか？ → () () () () English?
	How many ～ は「何個の～」という意味です。	④ <u>どの位長く</u> 彼女は英語を勉強することが出来ますか？ → () () () () () () English?
	How old は「何才」という意味です。	⑤ <u>何冊の本を</u> 彼女は持っていますか？ → () () () () () () have?
		⑥ 彼女は <u>何才</u> ですか？ → () () () () () ?
動名詞	動詞+ing を動名詞、to+動詞の原形を不定詞といます。	① 私は英語を <u>勉強すること</u> が好きです。 → I like () () English.
	どちらも、「～すること」という意味があります。	② 私は英語を <u>勉強すること</u> が好きです。 → I like () English.
	基本的には、動名詞と不定詞のどちらを使っても構いません。	③ 私は英語を <u>勉強すること</u> を終わりました。(正しい方に○) → I finished (to study / studying) English.
	enjoy、stop、finishの後には動名詞しか使えません。	④ 私は英語を <u>勉強すること</u> に決めました。(正しい方に○) → I decided (to study / studying) English.
	want、hope、decideの後には不定詞しか使えません。	⑤ 私は英語を <u>勉強すること</u> を望みます。(正しい方に○) → I want (to study / studying) English.
		⑥ 私は英語を <u>勉強すること</u> を楽しみました。(正しい方に○) → I enjoyed (to study / studying) English.
不定詞	不定詞は「～すること」以外に、「～するために」「～するための」「～して」などの意味があります。	① 私は英語を <u>勉強するために</u> 図書館に行きました。 → I went to the library () () English.
	ask 人+不定詞で「人に～するよう頼む」という意味です。	② 私は英語を <u>勉強するための</u> 本を買いました。 → I bought a book () () English.
	tell 人+不定詞で「人に～するよう言う」という意味です。	③ 私は英語を <u>勉強して</u> うれしいです。 → I'm happy () () English.
	want 人+不定詞で「人が～するのを望む」という意味です。	④ 私は彼女に英語を <u>勉強するよう</u> 頼みました。 → I () her () () English.
		⑤ 私は彼女に英語を <u>勉強するよう</u> 言いました。 → I () her () () English.
		⑥ 私は彼女が英語を <u>勉強するのを</u> 望みます。 → I () her () () English.
不定詞	It is … +不定詞で「～することは…です」という意味です。	① 英語を <u>勉強すること</u> は楽しいです。 → It is fun () () English.
	for+人「人にとって」を加えることも出来ます。	② 私にとって英語を <u>勉強すること</u> は楽しいです。 → It is fun () () () () English.
	疑問詞+不定詞で「～すべきか」という意味です。	③ 私は <u>何を勉強すべきか</u> 知っています。 → I know () () () .
	how+不定詞は「どのように～すべきか」という意味ですが、自然な日本語に直すと「～の仕方」になります。	④ 私は <u>いつ勉強すべきか</u> 知りません。 → I don't know () () () .
		⑤ あなたは <u>どこで勉強すべきか</u> 知っています？ → Do you know () () () ?
		⑥ <u>勉強の仕方</u> を私に教えなさい。 → Tell me () () () .
接続詞	2つの文をつなぐ語を接続詞といます。	① <u>もし</u> 明日雨が降る <u>なら</u> 、彼女は英語を勉強するでしょう。 → () it rains tomorrow, she will study English.
	ifは「もし～なら」、whenは「～する時」、becauseは「～なので」、thatは「～と」という意味です。	② 雨が降る <u>時</u> 、彼女は英語を勉強します。 → () it rains, she studies English.
	thatの前の動詞が過去形だと、後の動詞も過去形になります。	③ 雨が降った <u>ので</u> 、彼女は英語を勉強しました。 → () it rained, she studied English.
	接続詞のthatは省略することが出来ます。	④ 彼女は英語を勉強する <u>と</u> 、私は思います。 → I think () she () English.
		⑤ 彼女は英語を勉強する <u>と</u> 、私は思いました。 → I thought () she () English.
		⑥ 彼女は英語を勉強する <u>と</u> 、私は思いました。 → I thought she () English.
感嘆文	How+形容詞/副詞で「なんて～なんだ」という意味です。	① <u>なんて大きいんだ!</u> → () () !
	What+形容詞/副詞+名詞で「なんて～な…なんだ」という意味。	② <u>なんて大きい犬なんだ!</u> → () () () () !
	後に主語+動詞をつけることもできます。	③ 彼は <u>なんて背が高いんだ!</u> → () () he is!
	このように驚きを表す文を感嘆文といます。	④ 彼は <u>なんて背が高い男の子なんだ!</u> → () () () () he is!
		⑤ 彼女は <u>なんて速く走るんだ!</u> → () () she runs!
		⑥ 彼女は <u>なんて速い走者なんだ!</u> → () () () () she is!
まとめ	疑問詞は疑問文の前につきます。	① <u>どのように</u> 彼女は英語を勉強していますか？ → () () () () English?
	動名詞と不定詞は、どちらも「～すること」という意味です。	② 私は英語を <u>勉強すること</u> を終わりました。(正しい方に○) → I finished (to study / studying) English.
	不定詞は「～するために」「～するための」「～して」などの意味。	③ 私は英語を <u>勉強するために</u> 図書館に行きました。 → I went to the library () () English.
	It is … +不定詞で「～することは…です」という意味です。	④ 英語を <u>勉強すること</u> は楽しいです。 → It is fun () () English.
	thatの前の動詞が過去形だと、後の動詞も過去形になります。	⑤ 彼女は英語を勉強する <u>と</u> 、私は思いました。 → I thought () she () English.
	What+形容詞/副詞+名詞で「なんて～な…なんだ」という意味。	⑥ 彼は <u>なんて背が高い男の子なんだ!</u> → () () () () he is!

目的語	<p>目的語とは「～に」や「～を」という語句です。 2つ目的語がある場合、誰に 何を という順番になります。 何を 誰に という順番にする場合、誰に の前に to がつきます。 動詞が「作る」や「買う」の場合、誰に の前に for がつきます。</p>	<p>① 私は英語を教えます。 → I teach () (). ② 私は彼女に教えます。 → I teach () (). ③ 私は彼女に英語を教えます。 → I teach () () (). ④ 私は英語を彼女に教えます。 → I teach () () () (). ⑤ 私は彼女に(1冊の)本を買いました。 → I bought () () () (). ⑥ 私は(1冊の)本を彼女に買いました。 → I bought () () () () ().</p>
比較	<p>as ~ as で「と同じ位～」という意味です。 ～er で「より～」という意味です。 the ~est で「1番～」という意味です。 6文字以上の長い単語は、er をつけずに、more をつけます。 6文字以上の長い単語は、est をつけずに、the most をつけます。</p>	<p>① 彼は私と同じ位背が高いです。 → He is () () () I. ② 彼は私より背が高いです。 → He is () () I. ③ 日本の中で、彼は一番背が高いです。 → He is () () in Japan. ④ 彼は私と同じ位ゆっくり歩きます。 → He walks () () () I. ⑤ 彼は私よりゆっくり歩きます。 → He walks () () () I. ⑥ 私達全員の中で、彼は一番ゆっくり歩きます。 → He walks () () () () of us all.</p>
分詞	<p>動詞の ing 形を現在分詞といい、「～している」という意味です。 動詞の過去分詞形は「～される」という意味です。 現在分詞と過去分詞は、名詞を後ろから説明する役割です。</p>	<p>① ベッキーは英語を勉強している女の子です。 → Becky is a () () English. ② ケンはピアノを演奏している男の子です。 → Ken is a () () the piano. ③ ポチは机の下で眠っている犬です。 → Pochi is the () () under the desk. ④ 英語は世界中で話される言語です。 → English is a () () in the world. ⑤ これは昨日壊された家です。 → This is a () () yesterday. ⑥ これは彼によって書かれた本です。 → This is a () () by him.</p>
関係代名詞	<p>名詞と文章をつなぐ役割の語を、関係詞といいます。 who は「その人は」という意味の関係詞で、人につきます。 which や that は「それは」「それを」という意味の関係詞で、物や動物につきます。 which や that は「それを」という意味の時、省略できます。</p>	<p>① ベッキーは英語を話すことができる女の子です。 → Becky is a () () can speak English. ② ケンはピアノを演奏している男の子です。 → Ken is a () () is playing the piano. ③ ポチは上手に泳ぐことができる犬です。 → Pochi is a () () can swim well. ④ これは彼によって書かれた本です。 → This is a () () was written by him. ⑤ これは昨日私が読んだ本です。 → This is a () () I read yesterday. ⑥ これは昨日私が読んだ本です。 → This is a () I read yesterday.</p>
否定疑問	<p>疑問文の最初の語を否定形にすると、否定疑問文になります。 Do you speak English? 「あなたは英語を話しますか？」 Don't you speak English? 「あなたは英語を話しませんか？」 どの疑問文も、「する」なら Yes、「しない」なら No です。 否定疑問文の場合、反対の答えにならないよう注意しましょう。</p>	<p>① 彼女は英語を勉強しませんか？ → () () () English? ② 彼女は英語を勉強しませんでしたか？ → () () () English? ③ 彼女は英語を勉強しないつもりですか？ → () () () () () English? ④ 彼女は英語を勉強することが出来ませんか？ → () () () English? ⑤ (④の疑問文に対して)はい、出来ません。 → (), () (). ⑥ (④の疑問文に対して)いいえ、出来ます。 → (), () ().</p>
付加疑問	<p>文尾に、否定形+主語をつけると「よね」という意味です。 be 動詞の否定形は、isn't, aren't, wasn't, weren't。 助動詞の否定形は、can't, won't, mustn't, couldn't など。 一般動詞の否定形は、don't, doesn't, didn't。</p>	<p>① 彼女は英語を勉強しますよね？ → She studies English, () ()? ② 彼女は英語を勉強しましたよね？ → She studied English, () ()? ③ 彼女は英語を勉強していましたよね？ → She was studying English, () ()? ④ 彼女は英語を勉強するつもりですよね？ → She is going to study English, () ()? ⑤ 彼女は英語を勉強することが出来ますよね？ → She can study English, () ()? ⑥ 彼女は英語を勉強することが出来ましたよね？ → She could study English, () ()?</p>
まとめ	<p>2つ目的語がある場合、誰に 何を という順番になります。 ～er で「より～」という意味です。 現在分詞と過去分詞は、名詞を後ろから説明する役割です。 名詞と文章をつなぐ役割の語を、関係詞といいます。 疑問文の最初の語を否定形にすると、否定疑問文になります。 文尾に、否定形+主語をつけると「よね」という意味です。</p>	<p>① 私は彼女に英語を教えます。 → I teach () (). ② 彼は私より背が高いです。 → He is () () I. ③ ケンはピアノを演奏している男の子です。 → Ken is a () () the piano. ④ ケンはピアノを演奏している男の子です。 → Ken is a () () is playing the piano. ⑤ 彼女は英語を勉強しませんか？ → () () () English? ⑥ 彼女は英語を勉強しますよね？ → She studies English, () ()?</p>